

モモ「はつひめ」は人工受粉により生産性が向上する

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹—モモ—品種

2 担当者名

佐久間宣昭、高橋堯之

3 要旨

本県育成モモ品種「はつひめ」は、早生品種でも大果となる特徴を有する。しかしながら、花粉がないため自然交雑に任せると結実が不安定になることがある。人工受粉の有無による結実・着果状況を調査した結果、人工受粉を実施することで生産性が向上することを確認した。

- (1) モモ「はつひめ」の中果枝について、人工受粉を実施したところ、安定した結実が得られた（表1）。
- (2) 人工受粉を行わないと、不受精による生理落果が多く、また、摘果対象となるような変形で小さい果実が多く着果するため、仕上げ摘果後の着果数が少なくなる（図1、表1）。
- (3) 摘らいと人工受粉を実施することで、より大果生産が可能となる。



図1 受粉実施区（左）と受粉無し区（右）の収穫果

表1 受粉の有無による中果枝30本当たり着果数の推移

試験区	結果枝長 (cm)	中果枝30本当たり着果数			
		予備摘果後	仕上げ摘果後	修正摘果後	収穫時
受粉実施区	28.1	81	37	24	19
受粉無し区	27.0	76	4	4	2

注) 摘らい: 3/22 (受粉実施区のみ)、予備摘果: 4/25、仕上げ摘果: 5/17、修正摘果: 6/3、収穫: 6/28

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～7年度
- (2) 研究課題名 個性豊かな県オリジナル果樹品種の育成〔福島県産農産物競争力強化事業(研究)〕

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度東北農業研究成果情報, 7月上中旬に収穫できる食味良好なモモ白肉新品種「はつひめ」